

授業に対する没入感や学習態度と授業時間の長さイメージの関係

○沖林洋平
(山口大学教育学部)

目 的

本研究の目的は、オンライン授業を含む、Zoomなどの遠隔による同期的環境を利用した授業、パワーポイントの動画視聴などに基づくオンデマンド型授業、従来の対面的環境を利用した講義型授業などの授業方法の違いによる、授業への没入感や学習態度と授業時間の長さイメージの関係を検討することであった。

方 法

調査時期 本研究は、2020年度と2021年度の学年度を通して行われた。

調査対象者 調査対象者は、2020年度大学生654サンプル、2021年度1255サンプルであった。

質問項目 1. 授業方法 2. 授業に対する実感(SD法) 3. 授業の物理的な長さ(何分だったか) 4. 授業の心理的な長さイメージ(90分の授業を100として数字で答える)

SD法の項目は次の通りであった。1. つまらない—おもしろい 2. わかりにくい—わかりやすい 3. 聞き取りにくい—聞き取りやすい 4. 退屈—没頭 5. 消極的—積極的

手続き ウェブサイト上のアンケートに回答するという方法を用いた。授業者が著者以外の場合は、各授業の授業者に著者から調査の実施を依頼して、各授業の授業者が調査依頼のプリントを配布した。

結果と考察

各年度の調査対象の授業形式 調査対象となった授業における授業形式に関する回答結果をTable1に示す。2020年度は同期的環境を利用した授業が117件(18%)、動画視聴の授業が399件(61%)、対面講義は70件(11%)であったのに対し、2021年度は同期的環境の授業が56件(4%)、動画視聴の授業が558件(45%)、対面講義が641件(51%)であった。2020年度は対面講義がほとんど行われなかったのに対し、2021年度は対面講義の実施を模索していたことが推察される。

Table1 2020年度後期と2021年度前期の度数

	2020年度後期		2021年度前期	
	N	%	N	%
対面講義	70	10.7	641	51.08
対面実習	5	0.76		
Zoom	117	17.89	56	4.46
動画視聴	399	61.01	558	44.46
学外	1	0.15		
その他	62	9.48		
合計	654	100	1255	100

2021年度の授業方法と学部をTable2に示す。

Table2 2021年度の授業方法と学部

授業方法	教 経 工 理 工					合計
	教	経	工	理	工	
対面	635	2	3	0	0	640
Zoom	43	7	6	0	0	56
動画視聴	11	214	326	3	4	558
合計	689	223	335	3	4	1254

2020年度と2021年度の授業に対する評定値の平均値と標準偏差をTable3に示す。各年度の授業に対する平均評定値では、2020年度は、6.5から6.94の間であり、7.09から7.23の間であった。このことから、コロナ禍においても調査対象となった授業では学生から良い印象を得ていたことが示された。

授業方法については、教育学部が対面授業の割合が多く、経済学部や工学部では動画視聴の授業の割合が多かった。これは、学部の専門性だけではなく、共通教育科目を利用したことに基づく。

Table3 2020年度後期と2021年度前期の授業に対する評定値

	2020年度後期		2021年度前期	
	M	SD	M	SD
1_面白い	6.50	1.65	7.09	1.48
2_わかりやすい	6.71	1.63	7.08	1.53
3_聞き取りやすい	6.94	1.67	7.12	1.50
4_没頭	6.27	1.73	6.98	1.56
5_積極的	6.70	1.64	7.23	1.46
主観的授業時間	65.96	37.19	79.58	22.66